

令和7年度 第1回

学力向上担当者会

令和7年5月14日
学校教育推進課



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

担当者会のテーマ

学力向上担当者として、モデル校の成果や課題をもとに、自校の取組みを振り返り、本市の新プランで大事にしたいことについて共有する。

<本日の流れ>

①茨木っ子プラン ミつくる について

②ワーク・交流「単元計画と学習評価について」

③事務連絡

第6次プランの全体像

課題設定に基づき、3つの柱で取組みを整理

柱1 子どもにとって魅力ある学校園づくりを推進する

柱2 一人ひとりの子どもに応じた学びを保障する

柱3 子どもの育ちを支える教育環境を整える



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

柱1 子どもにとって魅力ある学校園づくりを推進する

学校園を子どもにとって、居心地がよく、安心感のある場にしていくとともに、授業改善や体験活動の充実等を通して、子ども一人ひとりがつながりの中で主体的に学び、**成長の実感**を得ることができるよう取組みを進める。



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

1

＜全ての子どもが主体的に学ぶ＞
授業 KAIZEN プロジェクト



何をめざす？

- 「何を学ぶか」を明確にした単元目標の設定と、「どのように学ぶか」を明確にした授業計画・評価計画を子どもと共有できている。
- すべての教科等において言語活動が充実している。
- 子どもの実態把握の実施と、支援を要する子どもへの適切なてだてがある授業が日常的に行われている。
- 幼児期と小学校の学びの接続、小学校と中学校の学びの接続を意識した授業づくりが行われている。

どのように取り組む？



- ◆一人ひとりの子どもの発達や特性を理解して指導と支援を推進する。
- ◆学級全体のきめ細かいスモールステップの支援を行う。

多層指導モデル MIM の活用
一見、理解しているように見える子どものつまずきを可視化し、定期的なアセスメントにより、つまずく前の支援を実施する。

一人ひとりの子どもの「わかる」を引き出す
授業における個別の指導計画の活用、授業におけるユニバーサルデザインの工夫や想定されるてだてを充実させる。

- ◆各教科等の資質・能力を適切に身に付け「学ぶ必要感」をもつことができる授業展開を検討する。
- ◆モデルとなる実践事例を積み上げ、共有する。

授業 KAIZEN チーム

(府スクール・エンパワメント事業
各モデル校・授業改善推進校等)
・学力向上に関する市教育委員会としての方向性を具体化するための手段をチームで提案していく。
・研究モデル校として実践報告・公開授業・単元計画の共有等市域への発信・普及を行う。

普及・発信

言語活動の充実

・魅力的な課題の提示
・学習の見通し
・既習事項の活用
・ICTや学校図書館の資料・過去児童・生徒の成果物等を活用し、調べたり考えたりする機会の設定
・アウトプットの機会の充実
・学び合う活動の充実や対話の必然性のある課題、情報の可視化の手段の充実

右のQRコードから本市の言語力向上の取組みを見ることができます。

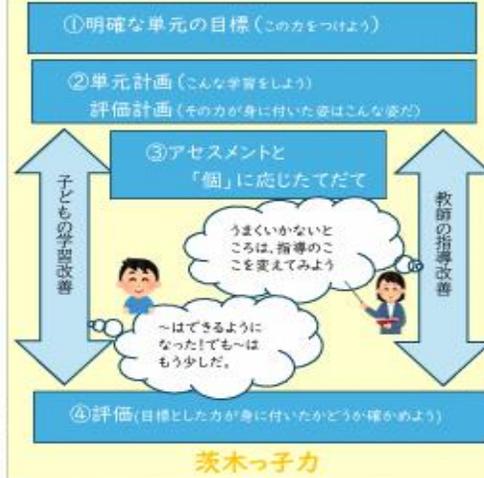


- ◆子どもが主体的に学ぶことができる授業改善の方法を多面的な観点から検討する。
- ◆共通の目的に向かって、連携して進める担当者・連絡会を実施する。
- ◆保幼小中の教職員がつながり、連携しながら取組みを進める。

授業づくりのポイント

- ①学習指導要領に基づいた単元の「つきたい力」と学習の目的がわかるよう課題設定を行う。
- ②子どもの感情にフォーカスした、生活や興味と結び付けた「学ぶ必要感」のある授業を展開する。
- ③「個」に応じた教育的ニーズをあらかじめ想定したうえで、事前に環境や指導方法を工夫する。
- ④子どもの姿のゴールのイメージをもち、どのように学んでいるのかをみとり指導にいかして評価する。

すべての子どもが主体的に学ぶ授業



- ◆教育課程を支える学校図書館環境整備とエンパワー層の学びの支援を行う。
- ◆学校間で研修や教材を共有し、質の向上をめざす。

各種サポーターの活用

・メディアサポーターと連携し、教育活動を支援し、効果的に活用できる学校図書館環境をつくる。
・まなびサポーターと連携し、個に応じた支援を行う。

研修・教材の共有化

各学校の公開授業や研修会、作成した単元計画・教材等を共有することで、学校ごとの得意分野を生かした好事例の共有を行う。

外国語教育推進担当者会

・外国語教育のリーダーとなる教員がモデルとなる授業や取組みを実践し、発信する。
・育成をめざす資質・能力を明確にした単元構成を提案する。

右のQRコードから本市の外国語の取組みを見ることができます。



道徳教育推進教師担当者会

・道徳教育推進教師を中心に教育活動全体を通じて学校が一体となって行う道徳教育の充実を図る。
・道徳教育の重点目標を明確にし、「考え、議論する」道徳の授業づくりを推進する。

学力向上担当者会

・「すべての子どもが主体的に学習する授業改善」をテーマに、市全体での方向性をそろえる。
・担当者同士の学び合いの機会とし、自校の取組み改善を生かす。

学習評価担当者会

・「指導と評価の一体化」の実現のため、学習指導における評価の在り方を研究・協議する。
・協議等で得たものをもとに自校の研究授業の指導案検討等に積極的にかかわり、授業改善へつなげる。

司書教諭等連絡会

・学びの基盤となる「言語能力・情報活用能力・問題発見解決能力」を育成するための拠点となる学校図書館の在り方を研究・協議する。
・読書推進の取組みを交流・普及する。

多層指導モデル MIM 連絡会

・「個」をみる視点を重視することで、効果的な指導を隅々まで届ける指導法について研究・協議する。
・特殊音節を含む字や語を正確に読める指導実践の交流を行う。

授業KAIZENプロジェクト（柱Ⅰ）

めざす授業づくりのポイントを共有し、各種担当者会が授業改善に向けて一体的に取り組む。

各校のミドルリーダーを中心とした授業KAIZENチームを構成し、効果的な実践等を発信、普及する。

多層指導モデルMIMの活用など、「一人も見捨てへん」の考えのもと、つまずきの早期発見、つまずく前の支援を充実させる。

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

多層指導モデルMIMの活用（柱Ⅰ）

学習の基盤となる「**ことばの力**」「**読む力**」を育むことができるよう、多層指導モデルMIMを活用した取組みを進める。

第5次プランの言語力向上プロジェクトの取組みを引き継ぎ、**モデル校**を拡大することで、取組みの充実を図っていく。

MIMは具体的な指導法やアセスメントが体系化されている一方で、大切なことは、子どもを「**つまずかせない**」すべての子どもの「**力を伸ばしたい**」という**想いが根底**にあることである。

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

②ワーク・交流「単元計画と学習評価について」

小学校第2学年 図画工作科

別紙1にある4つの児童の作品をそれぞれ評価

観点：「思考・判断・表現」

A? B? C?

二次元コードから投票

その評価をした理由を交流



小学校第2学年 図画工作科

ひらいたはここに絵を描かせることにしよう！

単に絵を描かせて、「上手だからA」

になっていないか
どうやって評価するか

学習指導要領に戻ってみると…

小学校第1学年及び第2学年 図画工作科

目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

小学校第1学年及び第2学年 図画工作科

目標

(2)造形的な面白さや楽しさ, 表したいこと, 表し方などについて考え, 楽しく発想や構想をしたり, 身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

小学校第1学年及び第2学年 図画工作科

内容 第1学年及び第2学年 「A表現」(1)イ

絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、**表したいことを見付ける**ことや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。



「自分のイメージを基に、表したいことを発想することである。例えば、破いた紙の形から想像して生き物に表したいと思ったり」



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

小学校第2学年 図画工作科

題材名 「ひらいたはこ」

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れる	<p>形や色などを基に、自分のイメージをもち、開いた箱を見て想像したことから表したいことを</p> <p>これだけでは、評価はつけられない</p> <p>りしながら、どのように表すかについて考えている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>つくりだす喜びを味わい楽しく開いた箱を見て想像したことを絵に表す学習活動に取り組もう</p> <p>いる。</p>

評価するには、

評価規準 と 判断基準

が必要

評価規準と判断基準の違いは？

評価規準

指導（学習）目標を具体的に述べたもので、端的に言えば、児童生徒が身に付けるべき資質や能力を質的にみる「よりどころ」。

判断基準

到達度で児童生徒の学習状況を示す際に、量的な「ものさし」として使われる。単元末や学期末、学年末などで評価の総括が必要な場面で、どのように判定するか
の基準。



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

小学校第2学年 図画工作科 題材名「ひらいたはこから」

題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。
- (2) 形や色などを基に、自分のイメージをもち、開いた箱を見て想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
- (3) 楽しく開いた箱を見て想像したことを絵に表す活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

小学校第2学年 図画工作科

題材名 「ひらいたはこ」

評価規準（思考・判断・表現）

形や色などを基に，自分のイメージをもち，開いた箱を見て想像したことから表したいことを見付け，好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら，どのように表すかについて考えている。

どんな判断基準にする？

何ができていたらB評価にする？

小学校第2学年 図画工作科

題材名 「ひらいたはこ」

【例】判断基準（B評価）

思考・判断・表現

- ・紙の形の全体や部分を何かに見立てたり，その形から想像したりして表したいことを見付けている。
- ・かいて生まれた形や色などからさらに想像している。
- ・クレヨンやパスの色を選びながら，表したいことをどのように表そうか考えている。

箱の折れ目で区切られた部分から、表したいことを見付ける。

紙の全体の形から、表したいことを見付ける。

紙の一部の形から、表したいことを見付ける。

(製作された作品)



「カラフルふしぎな町」

(製作された作品)



「スーパーねこ」

(製作された作品)



「ロボットトナカイ」

あることに気づきませんか？

完成した作品だけでは、評価は難しい

では、どうやってみとる？

活動に取り組む様子や発話
作品

ワークシートへの記述
などから評価



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

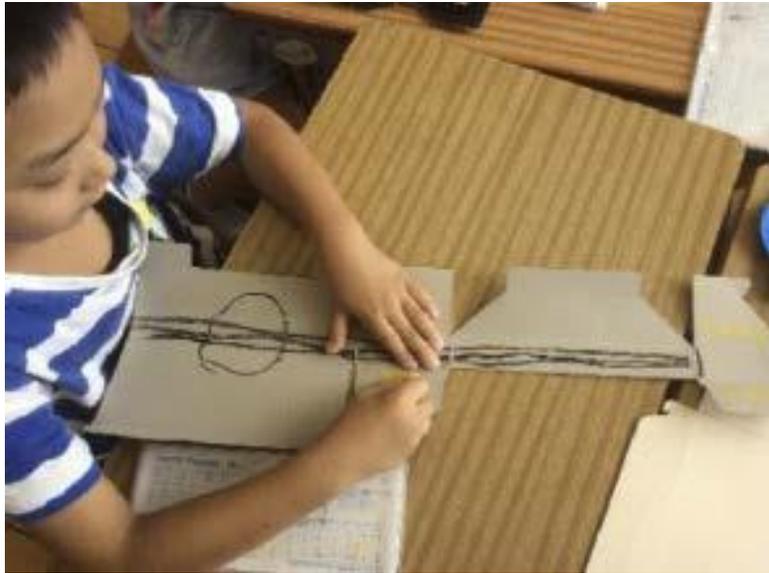
例えば



「ゆめのギター」



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。



① Aさんは開いた箱を縦にして、何かかかないか考えていた。しばらく考えた後、丸い穴と数本の長い線をかき始め、「これはギターなんだよ。」と話した。



②弦の横にかいた模様について教師が尋ねると、「これは、きれいな音がいろいろ出ているところだよ。」
と言い、形や色の違う流星を複数かいた。



③その後、「そうだ。ギターもカラフルにするぞ。」とつぶやき、いろいろな色でギターに色を付けていった。



「ゆめのギター」

活動の過程での児童の**観察**や、それに基づいた**対話**により、Aさんは、開いた箱全体の形をギターに見立て、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えていると捉えた。

評価規準（目標）と判断基準が明確でないと、目標としている力がついているかの評価（判断）や授業計画の立案が難しくなる

どれだけ具体的に、子どもがどのように作品をつくるのか、イメージ（予測）できるかが重要

子どもがどのように学習するかイメージ（予測）する



①授業（単元）計画の具体化

②子どもたちがどんなところにつまづくかの予測

③C評価になる可能性のある子どもへの手立て



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

①授業（単元）計画の具体化

- こんな力をつけさせたい
→ 目標の設定
- それをみとるために単元末でこんな活動をしよう
- そこに向けて、これをこの時間にしよう
→ 学習方法の設定
- 指導したことが力になっているか、定期的に評価して、学習（指導）を修正させよう
→ 指導と評価の一体化

②・③ つまづきの予測と手立て

C評価ってどんな姿？

「表したいことを見付けることができない」

「紙の形や、かいて生まれた形や色に関わりなく表したいことを見付けている」

「どのように表せばよいか決められない」など

どんな手立てが考えられる？

状況に応じて…

- ・紙をいろいろな向きにして見るよう促す
- ・特徴的な部分を示して問いかける など



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

すべての子どもが主体的に学ぶ授業

①明確な単元の目標(この力をつけよう)

②単元計画(こんな学習をしよう)

評価計画(その力が身に付いた姿はこんな姿だ)

③アセスメントと
「個」に応じたてだて

うまくいかないところは、指導のここを変えてみよう

~はできるようになった!でも~はもう少しだ。

④評価(目標とした力が身に付いたかどうか確かめよう)

茨木っ子力

授業づくりのポイント

- ①学習指導要領に基づいた単元の「つけたい力」と学習の目的がわかるよう課題設定を行う。
- ②子どもの感情にフォーカスした、生活や興味と結び付けた「学ぶ必要感」のある授業を展開する。
- ③「個」に応じた教育的ニーズをあらかじめ想定したうえで、事前に環境や指導方法を工夫する。
- ④子どもの姿のゴールのイメージをもち、どのように学んでいるのかをみとり指導にいかして評価する。

グループ交流

「目標に正対した評価計画と単元計画」について

- ・自校での実態はどうか
- ・改善のための取組みはどのようなものが考えられるか

③事務連絡

- ・第2回（9月17日（水）を変更）
府SE事業 言語能力をはぐくむモデル校学校
公開への参加（1回以上）
天王小学校 11月10日（月）
平田中学校 10月23日（木）
- ・アンケートのご協力をお願いします。



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。